

た よ り



〒518-0814 伊賀市上友生785番地

TEL&FAX:0595(21)8839

URL:<http://www.iga.ed.jp/igaken>E-mail:iga-ken@iga.ed.jp

学校にある樹木の存在感

8月13日の午後でした。40代後半と思われる男性が運動場に入ってきてあたりをじっと眺めていました。事務室にいた私たち二人に気づいたのか窓の方に近づいて来ました。窓を開けて挨拶を交わすと、「別に不審者ではありません。昔この学校に通っていた者です。久しぶりに帰ってきたのですが、昔と何も変わっていないので、もっと奥の方まで見に行ってもいいですか？」とわたしたちに尋ねました。私は、「どうぞゆっくり見ていってください。」と伝えました。

しばらくして、帰ってきたその男性は再び窓の方にやってきました。窓を開けると、彼は、「やあ、なつかしかったです。ありがとうございました。プールは使っているのですか。」と聞きました。私は、プールは使っていないことや、旧友生小学校は現在伊賀市教育研究センターになって活用されていること等を説明しました。

「運動場には桜がこんなにたくさんあるのですね。あの辺りは昔校舎があったんですよ。」と、彼は言いました。

「そうでしたか。春は桜の花がきれいですよ。親子連れがバックネットの近くでよく写真を撮っています。」と、私は伝えました。「さっき見てきたのですが、奥にある榎の木（ニレの木）は、懐かしいです。場所も昔のままです。とても大きくなって立派ですよ。家の者に聞いたら、明治時代からずっとあると言っていましたよ。」と、彼が教えてくれました。



実は、少し前、校地南側法面の草刈りをしていたとき、あまりに疲れたので、木陰で仰向けに寝転んでしばらく休んでいました。背中がひんやりと冷たく、時々風が心地よく吹くのでとても癒やされました。その大木が、榎の木だったのです。体力が回復できたのは、この榎の木の生命力のおかげかもしれません。

教育研究センターは、昔の友生小学校の姿を残しながら、地域の方の協力も得て、活用されている教育施設です。

各々の学校にも、子どもたちが大人になってからやって来ることがあると思います。そんなとき、忘れかけていた記憶が鮮明によみがえってくる体験をすることでしょう。

しかし、経年劣化や少子化の影響もあり、学校の校舎や体育館がいつまでも昔のまま残っているとは限りません。

せめて、学校の樹木が元気でいてくれれば、自分の思い出と重なり、大きく成長した樹木を見て、命の育みをより身近に感じられる機会となるのではないのでしょうか。